会員だより

平安時代の百人一首殿堂　時雨殿を訪ねて

京都嵐山の小倉山麓にある、百人一首殿堂、時雨殿を訪ねた。阪急電車を嵐山で降り、嵐山公園の中を通って渡月橋を渡る。３００メートルもあるだろか、歩いたところに時雨殿はあった。中に入ると、壁一面に百人一首の歌が、美しいかな書きで書かれている。百首もあると壮観である。そして十センチくらいの百人の人形が、歌留多の絵札そのままに作られて大きなガラスケースに収まっていた。また平安時代の「天徳内裏歌合」の場面が作られている。清涼殿西廂における歌合せの模様で、一段高い中央の玉座に村上天皇、その左右に更衣、典侍，下段には公卿、殿上人、判者などの人形が並んでいる。この歌合せの中で二十番目に「恋」という題が出て、百人一首にもとられている有名な二つの秀歌が競い合った。

右方　しのぶれど色に出でにけりわが恋は物や思ふと人の問ふまで　平兼盛

左方　恋すてふわが名はまだき立ちにけり人知れずこそ思ひそめしか　壬生忠見

判者の左大臣、藤原実頼は優劣をつけられず補佐の大納言源高明に決めて貰おうとしたが高明は平伏してなにも言わない。その時、帝が「しのぶれど」と口ずさんでおられるのを高明が聞きつけ、それを実頼に伝えようやく、右方の勝ちとなった。と言われている。敗者となった忠見は、出世をかけて望んだが負けたことに悲観してその後、食べ物を受け付けなくなりそのまま死んだという話も残っているそうだ。

二階に上がると、十二単の簡単な衣装の着付けをしてくれて、若い人たちが写真を撮り合っていた。帰りには嵐山花灯路のいろんな灯篭が置かれているのを見て夜だったらきれいだろうなと思った。

牧戸富美子

ムーミン一家のシンブル［わたしのコレクション自慢］

釣りをしているムーミン、冒険に出かけるムーミンパパ、ムーミンママはキルトをしている。スナフキンもリトルミィもいてムーミン屋敷までである。実はこれはあるお菓子の景品で、１箱のビスケットにどれか１つシンブルが入っているというものだった。子どもが野球カード欲しさにスナック菓子を買うのを責めたりはできない。どれも揃えたいみんな集めたいのはコレクターの心情。

この存在をキルト雑誌で知ってから、色んなお菓子売り場を探したが見つからなくて諦めていたが、そうだ！パソコンを習ったのだからネットで探して見ようと思い立った。あったあった。８箱まとめ売りで６つ全部揃うかどうかは保障できないとのことだが、とりあえず「ネットで買い物」に挑戦。翌々日小さな段ボール箱が届いた。ビスケットの箱が８個きっちり入っていた。さあ、何がでるかな？おまけみたいなビスケットはそっちのけで、わあムーミンだ。パパだ。スナフキンだ。ママだ。ドキドキしながら次の箱をあける至福のひととき。幸運にも順々に別なのが出てきて６箱目で全部揃った。

シンブルは実用性とともに女性のお守りにもされたという。友人たちから旅行のお土産にもらったものや記念に求めたものなど、シンブルひとつひとつに思い入れがある。かくしてムーミン一家お揃いで私のシンブルコレクションの仲間入りをした。

内泉早苗

本年は巳年ですね

「槻輪」初投稿なのに申し訳ないのですが、蛇は生き物大好きの私のたったひとつの苦手な存在です。怖いあまり遠目でも土手や草叢やらでいち早く見つけてしまいます。テレビでも凝視！夫は長い間お気に入りだなと思っていたとか。それに纏わる笑い話を二つご披露します。

ある時、場所は三朝温泉の温泉街。妹一家や仲間と一杯機嫌でぶらぶら。前方に何やらとぐろ状しかも鎌首は三角「蝮よ！」と叫ぶ私。「あり得へん。酔うたんちゃうか」どんどん歩いて、ついに目の前に。周りの店の人たちが飛び出してきて「蝮や蝮や」と大騒ぎになり店の人が竿の先に引っ掛けて行きました。

とある春の信州の草原の朝。夫が「棒で草叢を叩きながら歩くから大丈夫や」すると、その夫と私の間を横断。「ぎゃー出たあ」その途端、夫は全速力で走りました。ありそうであった話です。

伊坂幸子

二人だけの記念日旅行

２泊３日の台湾旅行に行ってきました。よい天気の台北中心の旅でした。

名所巡りの中で楽しみにしていた故宮博物院には、たっぷり時間をかけて見てまわりました。一番印象的だったのは永和宮に安置されていたヒスイの「翠玉白菜」ですが、実物は19㎝位で創造より小さかったのですがよく見れば葉先に二匹の虫が止まっていました。その虫キリギリスとバッタは皇帝に子孫が絶えない事、花嫁の純潔を象徴して多産を祈願して葉先に止まったと言う事でした。

また徒歩10分の山間にある天燈上げは、家庭円満・健康・世界平和や願い事や想い等を人間の背丈程ある天燈に書いて火が点けられ願いを込めてゆっくり大空に昇って行きます。我々の天燈も舞い上がりました。

40年ぶりの二人での海外旅行でした。これからも元気で記念になる旅が出来るよう願っています。

下村美代子